

ANGELUS



2016 – « LE RAYONNANT »

降雨なしの3ヶ月の夏。ぶどう栽培家になってから、こんな気候には覚えがなほどの異例の事態だ。だが、この驚異の気候は、信じがたい好条件となり、予測外の、思いもよらぬ最高級ヴィンテージをもたらしてくれたのだった。6月10日までは連日の大雨に見舞われ、水不足の年の1年分の降雨量に相当する約750mmがボルドーを襲った。このような条件下であったにも関わらず、開花には問題なかった。6月の最終週になると好天続きとなり、非常に稀なのだが、この天候はブドウ収穫期まで継続した。7月は天気が良かったものの、夜間は冷え込んだ。7月末の太平洋の温度は例年より低くなった。そして雨は一滴も降らなかった。8月は気温が上昇し、35℃を越す真夏日も数日記録した。しかし、8月を通じての日中と夜間の温度較差は非常に大きく、夜間は日中の半分まで涼しくなったことから、ぶどうのアロマの表現が豊かになり、果実の瑞々しさが保たれた。これに加え、降水はほとんど観測されず、わずか5~8mmに留まったものの、ぶどう樹が乾燥しないギリギリの状態を保つことができた。まだ年齢の浅い若樹には水不足が堪えはじめたものの、粘土質や石灰質の土壤に植えられたヴィエイユ・ヴィーニュ(古木)は、雨季にスポンジのように雨水を吸い、乾季に貯蔵水として配給する類稀な土壤のお蔭で、まったく動じない様子であった。「私がぶどう畑を見守り続けて35年が経過しているが、例年であれば7月14日から8月15日にかけて夕立が降るものだ。しかしこの年には夕立らしきものは一度も降らなかった。9月になっても、暑さを伴う夏の陽気が続いた。28℃~30℃は日常的な気温だった。9月半ばに大規模な夕立の予報があり、誰もがやきもきした。しかし白い雲や鉛色の雲の間から落ちてきたのは、慈悲の雨であった。19mm、そして4mmの雨。この降水で土壤にエネルギーが満ちわたり、ぶどう畑に力強さと息吹きをもたらした。やがて再び好天となる。タンニンの成熟は緩やかに行われ、グラン・ヴァンのための収穫が10月初旬に開始した。夏の夜の清涼のお蔭で、アロマと酸味に恵まれた。その後2週間の天気予報により、穏やかで自由な収穫が見込まれ、アンジェリユスに新たなグラン・ミレジムが誕生する期待が大きく膨らんだ。このミレジムは、ワインの運命を定め、アイデンティティを刻み込んだこの3か月の夏と同じく、眩(まばゆ)いものとなった。」

ぶどうの収穫：10月4日~21日

アッサンブラージュ 2016：メルロ60%、カベルネ・フラン40%



Famille de Bouïard de Laforest - 33330 Saint-Emilion

Tel.(33) 05 57 24 71 39 - www.angelus.com - angelus@angelus.com